



# 南丹市立美山小学校

## オフィシャルウェブサイト



〒601-0751 京都府南丹市美山町島 島台52番地 TEL: 0771-75-0017 FAX: 0771-75-0106 MAIL to: miyama-es@kyoto-be.ne.jp  
通級指導教室 (ことばの教室) TEL:0771-75-1097

### 美山小学校WEBページ

トップページ

- 学校紹介
- 行事予定
- 学校だより
- 研究推進
- 学校評価
- 美山学
- 美山学だより
- 図書室だより
- R3年度美山っ子日記
- 感染症対応マニュアル
- 就学援助制度について
- いじめ防止基本方針
- 気象警報等の対応
- 全国学力・学習状況調査結果

since 2016.04.01

COUNTER 830895

### リンク集

[南丹市教育委員会](#)  
[南丹市役所](#)  
[京都府教育委員会](#)  
[京都府南丹教育局](#)  
[文部科学省](#)

[南丹市立美山中学校](#)

### 南丹市立美山小学校

〒601-0751  
京都府南丹市美山町島 島台52番地  
TEL 0771-75-0017  
FAX 0771-75-0106  
MAIL miyama-es@kyoto-be.ne.jp



本ホームページの著作権は、南丹市立美山小学校に帰属します。

### お知らせ

本校の地域とともにある教育実践について発信していきます。

### 美山学 地域連携コーディネーター通信

地域連携コーディネーターの視点から発信していきます。

◀ 前 1 2 3 4 5 6 7 次 ▶ カテゴリ選択 10件 ▼

2022/05/13 グリーンワールド事前学習

by 美山学

### グリーンワールドって緑の世界!?

4年生の学習の中でも一大イベントとなっているグリーンワールド! 訪れるのは知井地区の芦生。西日本最大級のブナ原生林を見ることができる、貴重な原生の森が美山にはあるのです。ここ数年は秋に芦生の森へ行きましたが、今年は若葉が目まぶしい季節の5月下旬を予定しています。今日は、グリーンワールドでガイドをお世話になる「芦生もりびと協会」から、鹿取悦子さんと大滝あやさんにお越しいただき、事前学習に取り組みました。



さて、みんなが楽しみにしている「グリーンワールド」って何?の質問から始まり、どこへ、だれが、だれと行くのか? 何があるのかなど、さまざまな質問から、芦生の森がどんなところか思いをはせました。



地図の学習が始まる4年生は、自分たちの住む地域の位置を地図上で確認しながら、自分たちが普段飲んでいる水がどこからやってきているのか? 想像してみました。



美山町の面積の90パーセント以上は森林ということで、水の源となる森があちらこちらにあるこの環境は、当たり前だと思っているけれど、世界的にみるととても希なこと。

グリーンワールドで芦生の森を歩くことで、私たちににとっては当たり前の大自然が、どんなに素晴らしいものであるかを感じてくれると良いと思います。

今日の事前学習で、グリーンワールドを目前にしたドキドキがワクワクに変わったようです!



## 農から学ぶ活動、ことしも始動しました！

毎年、校舎裏の畑づくりや田植えの作業など、農にまつわるさまざまな活動を通して、5巻を使って学びを深めている美山小学校の子どもたち。

今年度も春の作業が始まりました。野菜作りの一部や、田植え作業などをお世話になっている寺井憲治さんに教えていただいて、楽しく作業をしました。



グラウンドの片隅に置かれた、タイヤ稲用の土の入れ替え作業に取り組んだり



校舎裏の畑に、夏野菜の苗を植えたりして、ことしも農活の始まりです。



今年ほどこんなにたくさんの実りや、収穫を得られるでしょうか。今から楽しみです！

14:09

## ベストツーリズムビレッジに選ばれた美山の観光とは？

5年生は美山町の産業のひとつとなっている、観光について調べています。かやぶきの里や、芦生の森をはじめとする観光資源が豊富なわたしたちのまち美山町について、南丹市美山観光まちづくり協会の高御堂さんから話をうかがいました。



美山町がかやぶきの里として有名になっており、大勢の観光客が訪れることを知っていた子どもたちですが、コロナ禍で観光がどのように変わっているのか、知らないことがまだまだたくさんあります。多いときで約90万人もの人々が訪れていたこと、今は感染症拡大の影響で少なくなっていること。



そのような中でも、美山町の観光が、地域と人と自然のかかわりを大切にしながら取り組んできたこと、それが持続可能な観光の在り方として、昨年12月に国連世界観光機関(UNWTO)が選定するベストツーリズムビレッジに選ばれ、世界的に認められたことを知りました。



そんな美山町の観光の魅力を活かせるように、5年生年りのモデルプランを考え、グループごとにツアーを作成しています。

高御堂さんには、具体的にどのような視点でプランを考えたらよいのかなどについても、アドバイスをいただきました。



授業の後も、自分たちのツアープランについて個別にアドバイスをもらいに行く姿が見られました。これらのプランが、いつか実際に販売される日が来るかも知れません。

16:09 | 5年

■ 2022/02/25 ■ 10年後の美山の農業スライドショー！

  | by 美山学

## 美山の10年後の農業を考える

5年生は2学期の総合的な学習の中で、美山町内の農家さんたちにお話をうかがったり、実際に作業を体験させていただいたり、見学させていただいたりしながら、美山の農業について探究学習を進めてきました。

そのうえで、10年後の美山の農業について、自分たちなりにまとめをスライドショーに仕上げました。

お世話になった、農家の皆さんにもまとめをご覧いただきましたが、大変よくまとめられているとおっしゃっていただきました。

地域のみなさんと一緒に美山の農業について考え、自分たちなりの思いを持つことができたことは大変貴重な経験になったのではないのでしょうか。

[5年生総合まとめ](#)のページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

11:26 | 5年

■ 2022/02/24 ■ ★美山牛乳のひみつ その②

  | by 美山学

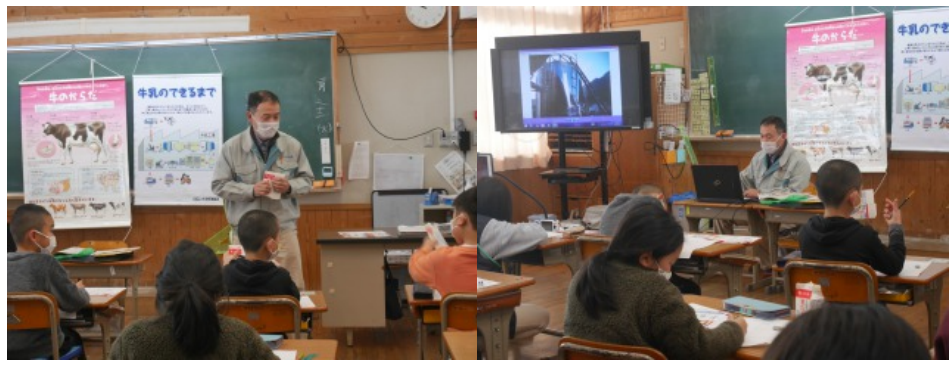
## 美山牛乳の工場から

先日、弓立牧場に行って美山牛乳の原料となる生乳を生み出す現場を見てきた3年生。

今回は、美山ふるさと株式会社から、美山牛乳の工場でお仕事をされている竹村さんにお越しいただき、牧場で作られた



生乳が私たちのよく知っている美山牛乳になるまでのお話を聞かせてもらいました。



牛たちの乳を搾って運ばれた生乳が美山牛乳の工場まで行くところは想像できますが、工場の中でいったいどんなことが起こっているのでしょうか？



牛から搾ったお乳はそのままの状態でも牛乳として販売されているのではないと聞いて、驚いた様子の子もたち。見慣れた美山牛乳パックの、組み立てる前の状態のままを特別にいただいて、興味津々です。



美山では、先日見学に活かしてもらった弓立牧場さんと知井の河野牧場さん2か所の酪農家さんたちが、美山牛乳を生み出す牛たちを飼育されていると知りました。2軒で1日に約3 tもの生乳が製造されているそうです。

特に、美山牛乳の最大の特徴でもある殺菌方法は、他の牛乳との味の違いにつながる特徴的なもので、だからこそ美山牛乳はおいしくて飲みやすいのだそうです。これには子どもたちも納得の様子でした。



お話を聞かせていただいた後の質問では、美山町以外でどこで販売されているか、どんな気持ちでお仕事されているのかなど教えていただきました。

みんなが、給食の牛乳を毎日おいしく飲んでくれることが何よりうれしいとのこと、私たちも毎日大切においしいいただきます。

09:00 | 3年



## 弓立牧場へ行ってきました

雪が降りしきる美山の冬。今年は本当によく降りますね。  
宮島地区長谷にある弓立牧場さんでも、牧場の周りは雪一面真っ白の景色が広がっていました。  
3年生は総合的な学習の中で美山のお宝を探すべく学習してきましたが、今回は美山の特産品として長い間愛されている、美山牛乳について調べます。



弓立牧場では美山牛乳のもとになる生乳を作ってくれる牛たちが飼育されています。  
壁がなく開放感のある建物に、大きな牛たちがたくさんいました。



酪農家の今井さんは美山小学校の児童の保護者さんでもあります。子どもたちも身近なかが酪農をされていて、しかも毎日、給食でその美山牛乳を飲んでいるのですから、より親しみがわき、ありがたく感じますね。



牛たちのエサやりや、寝床となる牛舎の清掃など、毎日の作業はたくさんあります。生きている牛たちを相手にするこの仕事には休みがありません。  
大変なお仕事ですが、こうして牛たちを間近で見るととてもかわいくて、はじめはこわごわだった子どもたちも近づいて触ってみることができました。



牛がお乳を出すということは、赤ちゃんを出産した後と言うことで、牛舎には子牛もたくさんいました。





搾乳をするレーンにも入れてもらいました。ここには搾乳される牛たちが自分たちで歩いて入ってきます。今日は子どもたちが牛の気持ちになって特別に入れていただきました。

弓立牧場の牛たちは自分たちの行きたい場所に自由に移動できるようになっています。広々とした空間で、気持ちよさそうに動く牛たちは、こうしておいしい美山牛乳のもととなるお乳を作ってくれているんですね。ありがたく、大切に飲ませてもらおうと思います。

11:38 | 3年

2021/11/26 ■ あきとなかよし

by 美山学

### みんなのフクロウ 名前は何かな？

季節ごとの自然や遊びをみつけて、体験している1年生、ドングリや落ち葉でゲームを作ったりしてきましたが、今回は遊びの大先輩、中野愛子さんに来ていただいてススキを使ってフクロウ作りに挑戦しました。[美山っ子日記の記事](#)でも紹介しています。



身近に生えているススキから、どんなフクロウができるでしょうか？



はじめに、それぞれ20本ずつ数を数えて、ススキの穂の部分进行そろえながら束ねていきます。次に頭の部分となる丸い形を作ります。



束ねたススキの穂をくるっとひっくり返しながら束ねてひもでくるくる作業は、1年生の小さな手では難しかったですが、2人一組のペアで協力しながら頑張りました。頭の部分ができると、胴体の部分も同じようにくるっとひっくり返して丸い形を作ります。





形ができあがると、それぞれ画用紙で個性的な目をつくって、フクロウに命を吹き込みました。  
最後に、ペアで作ったフクロウの名前と頑張ったところなどを紹介しました。  
8羽のフクロウたちも、どれも愛らしくて目が離せません。

作業を終えると図工室はススキの穂でいっぱいになってしまいましたが、最後にみんなで力を合わせて掃除をしました。  
2学期も終盤、1年生の成長を今後はフクロウたちと一緒に見守っていきます。

17:00 | 1年

■ 2021/11/25 ■ 美山の歴史をたどる～光照寺～

by 美山学

### 川勝氏が築いた今宮城から光照寺へ

先日は今宮城跡へのぼって、戦国時代の美山に思いをはせた6年生。  
今回訪れたのは、今宮城を築いた川勝光照ゆかりの、その名も光照寺です。速報を[美山っ子日記](#)でも紹介しています。



お話をうかがったのは、光照寺がある宮島地区静原の北川さんです。



戦国時代にこの地域をおさめていたとされる川勝光照氏と、静原地域にあったと言われる市場のお話や西の鯖街道との関わりなど、美山の歴史についてこれまで学習してきたこととつながりのある話に、さらに興味がわきます。



この地域と明智光秀との関わりやその時代の武将の話の話を聞いていると、歴史の教科書や大河ドラマの世界が、ぐっと身近に自分たちの世界につながるように感じます。





最後に、お寺の横に何百年も立っていた大きな桜の木の倒木を見せてもらいました。

川勝光照が生きていた当時からつい最近まで、この地域を見守っていた山桜の木は、今は大きな幹は倒れてしまいました。しかし、その枝や根元からは新しい枝が伸びて今も生き続けて、今もこの地域を見守っているようです。子どもたちの熱心な学習の様子も見守ってくれました。

15:46 | 6年

2021/11/24 ■ 美山の福祉は笑顔のふくし その④

by 美山学

## HAPPY美山月 笑顔の福祉

美山の福祉について学習する中で、これまで2つのグループに分けて「こぶしの里」と「やすらぎホーム」の皆さんと交流してきました。（[やすらぎホームの皆さんとの交流1回目](#)、[こぶしの里の皆さんとの交流1回目](#) それぞれ過去の美山学のページで紹介しています。）

今回は、前回の交流の反省点を活かしてそれぞれ2回目の交流に挑戦しました。

まずは「こぶしの里」の皆さんとの交流からです。



お手玉チームは、こぶしの里の皆さんにもお手玉を持っていただき、一緒にお手玉を楽しみました。



けん玉チームは、それぞれ難しい技にも挑戦して、よく見えるように工夫しながら楽しんでもらえるようにしました。よさこいチームは、運動会で披露した表現運動のよさこいを踊って皆さんにも手拍子をもらいながら一緒に楽しみました。

「やすらぎホーム」の皆さんとの交流では最初に全員でリコーダーの演奏を披露しました。



みんなで上手に合わせてきれいな音色を聞いていただくことができました。





紙芝居チームは「いもころがし」を読み、お話の中からクイズを出して皆さんと交流しました。



けん玉チームは技を順番に披露しながら、やすらぎホームの皆さんに楽しんでもらいました。



手遊びチームは、リズムに合わせて椅子に座ったままでできる手遊びに挑戦。やすらぎホームの皆さんも一緒に手を大きくあげて手遊びに参加してくださいました。



折り紙チームは、得意の折り紙で作った名札を付けて登場。手元の折り紙で車いすや、おばあちゃんの顔を作って見せました。



それぞれ2度の交流を通して、ゆっくり話すことやお互いに交流する難しさ、どうしたら画面の向こうの皆さんにうまく伝えられるか、一緒に楽しく交流できるかなど考えてみました。うまくいったことも、すこし失敗したこともありますが、この経験を活かしてまた次につなげていけると思います。

交流を通して、やすらぎホームの皆さんとこぶしの里の皆さんに楽しんでもらって、元気になってもらいたいと思っていましたが、逆に4年生が笑顔いっぱいになってもらっていました。ありがとうございました。



## 棚野の千両祭りに関わる人から話をうかがう！

先日、鶴ヶ岡の諏訪神社を訪れた3年生、棚野の千両祭りについて総代さんからお話をうかがいました。今回は、諏訪神社大祭の奉納芸に実際にたずさわってこられた地域の方をゲストティーチャーにお迎えしました。



5つの地域の奉納芸それぞれを、写真で紹介していただきながら、どんな芸があるのか、楽器を使うのかなど紹介していただきました。



お話をしてくださった内牧さんは、鶴ヶ岡地区の依振りを経験されており、雑誌で紹介されている写真を見せてもらいました。

目の前でお話をしてくださっている方が、写真の中できれいな衣装を着て芸を披露されている様子に、子どもたちは少し驚いたようでした。



15年、30年に一度しか開催されない大きなお祭りは、芸事を教えたり習ったりする方法に限られ、継承が難しいということや、子どもたちが少なくなってきて、祭りに参加できる人数が少なくなってしまうことでも継承が難しくなっていると知りました。

いろいろな課題がある中でも、工夫をしながら祭りを継承したいと思っておられることを聞き、自分たちには何ができるかな？と考えるきっかけになりました。

お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

15:17 | 3年